

育イクメン! men!

—— パートII

台湾・韓国・オーストラリアの

事情を聞きました。

- ① 働き方で違いはあるのかな？
- ② 父親or男性の家事に対する関わり方は？
- ③ 男性の役割についてどうなっているかな？



留学中のトライアングル
編集員松永好美さん
(鹿児島純心女子大学)
からのレポートです。

1 ほとんどの女性が働きたいと
思っており、実際共働きが多いで
す。また男性はそのことにとても肯定的
です。

同年代の男性に、共働きについてたず
ねたところ、「働きたいのは女性なのに、
なぜ僕にそんなことを聞くのか」と逆に
質問されました。個人の意思が尊重され
ることは当たり前、という意識があるよ
うです。

2 台湾は外食が多く、家でご飯を食べる習慣があまりない
ようです。日本のように、毎日掃除をするという習慣もあ
まりないため、日本との単純な比較は難しいと思いました。

けれども、お茶を入れるとか、洗濯物を干す・たたむ、という
作業は、父親が積極的にするそうです。

私が台湾人の家に泊まりに行ったとき、お茶を入れて、ベッド
の準備をし、送迎してくれたのは父親でした。

中には、父親は家事を全くしない、という家庭もありましたが、
日本ほど女性が家事をするのが当たり前という感覚はないよう
でした。

3 女性が男性よりも強いような印象です。女性も男性と同
じように意見を言い、それに対し、「女のくせに」という反
応が男性側からはないように思います。

男性の育児休業については、聞いたことがない、と言っていま
したが、子育ては家族みんなの問題
だから、父親も、祖父母も、
みんなで育てようという
気風があるようでした。

日本に似ている面も
あり、家庭によるところ
もありますが、性別役割
分担意識は、日本ほど
強くないと感じました。



コ ラ ム

妻と夫、夫と妻

ラウフェンブルガー橋渡よし江

(薩摩川内市

女性50人委員会会長)

「育メン」とか、男女共同参画
社会という言葉をよく聞くよう
になった。

フランスでも、女性もほとんど
働いている。フランスの男性は普
通、家事など家のことをいとも当
たり前に、する。比例選挙の候補
リストでは、必ず男女、あるいは
女男、と交互になっているように、
と法律で定められている。日本よ
りも、男女平等な社会参画、家庭
の協力が進んでいるように思う。

その根底は、実は、言葉、表現
もあるのではないかと思っている。
言葉が先か、事象が先か。事象も
あるが、ネーミングによって、そ
の事象が更に強調されることも多
い、と思う。

私は以前、何も考えず、自分の
伴侶のことを人に話すとき「主人」
と言っていた。

